

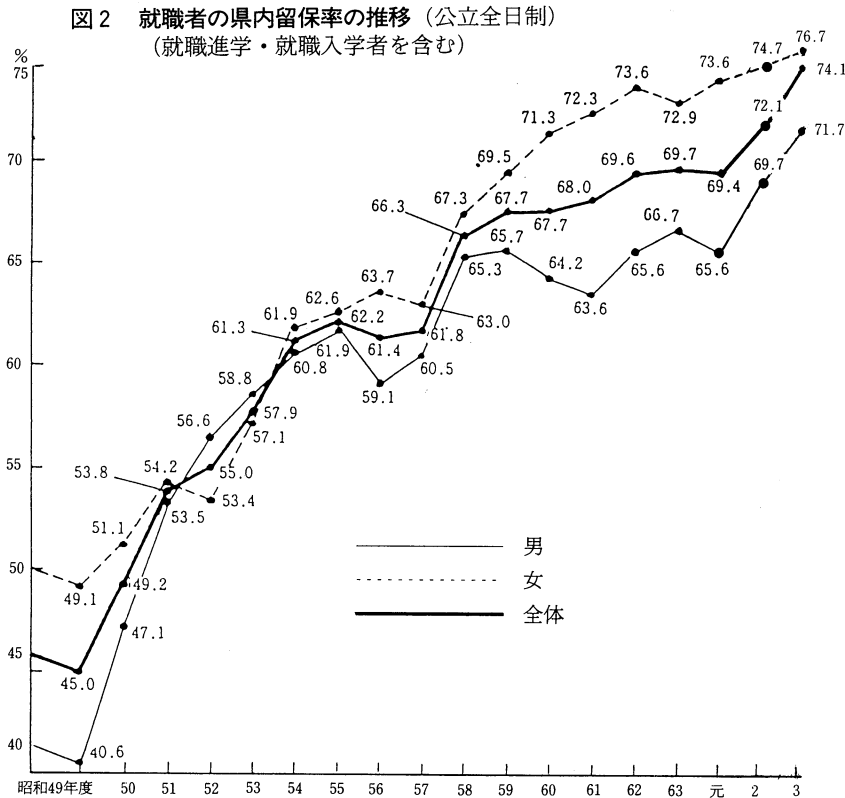
千二百七十一人(同千九百九十九人)、計三千八百六十二人(同三千五百五十七人)で前年度より三百五人増加した。(県立高等学校長協会調べ)

### 三、就職状況について

(一) 一般的な状況表1、図1の②、

図2参照

就職者数は、男子六千五十八人



(48・7パーセント)、女子五千二百六十五人(45・3パーセント)、計一万一千三百二十三人(47・0パーセント)である。就職率は前年度に比して男子は3.1ポイント、女子は1.5ポイントとともに減少し、全体では2.4ポイントの減少となった。

学科別の就職率をみると、すべての学科で前年度に比して減少した。男女別では、その他の学科の女子が増加したほかはすべて減少した。

また職業学科全体の就職率は76・2パーセントと六十年以降最低となった。

就職者の実数では、普通科の四千五百八十五人が最も多く、就職者全体の40・5パーセントを占めている。次に就職進学者・就職入学者の計二百九十二名(前年度三百五十四人)を含めた就職率は48・3パーセント(前年度50・9パーセント)となっている。

(二) 産業別就職状況(就職進学者・就職入学者を含む)(表7参照)

製造業五千六百七十九人(48・9パーセント)、卸売・小売業、飲食店千九百九十六人(17・2パーセント)、サービス業千九百十人(16・4パーセント)が例年どおり上位を占め、この三業種で全体の82・5パーセントを占めている。前年度より0.7ポイント減少している。

ここ数年間の傾向をみると、農業、漁業などの一次産業への就職率は、五十九年度以降1パーセントを下回り、三年度は0.3パーセントと前年度より0.1ポイント減少した。

製造業などの二次産業では、53・5パーセントと前年度より1.4ポイント減少した。

流通・サービス業などの三次産業では、45・6パーセントと前年度より0.7ポイント増加した。

(三) 都道府県別就職状況(就職進学者・就職入学者を含む)(表8、図2参照)

就職進学者・就職入学者二百九十二名を含む全就職者一万一千六百十五人中、県内就職者は男子四千三百八十三人(71・7パーセント)、女子四千二百二十人(76・7パーセント)、計八千六百三人(74・1パーセント)で、県内留保率は前年度に比して2.0ポイント増加し、四十九年度以降最高を示した。

就職者の県内留保状況を学科別にみると、家庭科77・5パーセント、商業科77・2パーセント、農業・水産科75・3パーセント、普通科74・3パーセントなどとなっている。